

# 海外、アジアへ進展するオープンイノベーション

上席イノベーションコーディネータ みやざき よしのり 宮崎 芳徳

## はじめに

2014年4月に、国際部長から上席イノベーションコーディネータに着任しました。同年5月中旬にタイのバンコクに赴任し、自称、グローバルイノベーションコーディネータとして、対アジアイノベーション戦略を推進するため、タイを始めとするアジア諸国の国立研究機関との連携、優秀人材の発掘、日系中小企業支援、科学技術海外交流などを行っています。赴任して早々の5月、タイでクーデターが勃発し、現在も継続中の戒厳令発令など、政治的・経済的混乱が生じて、しばらく活動が大きく制限されました。変則的な軍事政権下ですが、ともにタイ国立科学技術開発庁出身のヨヌット副首相(元科学技術大臣)とピチュート科学技術大臣が内閣のメンバーであり、科学技術面では最強の布陣です。

## 海外展開に向けて

日本の研究機関や大学などは、海外展開に積極的です。例えば、理化学研究所、科学技術振興機構、日本学術振興会などは、海外に拠点を複数設置してネットワーク化を進めています。タイには、京都大学、大阪大学など日本の国公私立大学35校が連絡事務所や出張所などの拠点を置いて活動しています。バンコクにおいても、産総研を含めた日本の公的研究機関や大学などが、科学技術連絡会を開催して情報交換を進めています。日本の地方自治体も、福岡県、埼玉県、鳥取県、仙台市などが積極的にバンコクに進出しており、タイ工業省との覚書締結も活発です。ASEAN経済共同体(AEC)が2015年に誕生することにより、6億もの人口を抱えるASEANが世界第3位の大きな市場になります。これを踏まえて、タイにおいては、経済、貿易、知財、科学技術、人的交流など、さまざまな取り組みが展開されています。

## 科学技術とアジア

日本で留学、博士号を取得されたあと、タイの重要ポストで指導者として活躍されている方々がたくさんおられます。最近、国際協力機構のODA60周年記念イベントが、ここバンコクにおいても開催されました。日本のODAは、タイを含めたアジアの開発途上国の自立を助け、経済成長や平和の構築に大きく貢献してきました。タイにおいても、鉄道、橋、空港、道路にとどまらず、モンクット王工科大学や、タイ国家計量標準機関など、組織整備強化にも協力してきました。1960年代からの長年の協力関係により、日本とタイの間には、

人的・組織的な大きな結びつきがあります。タイは世界銀行の定義によると、上位中所得国に成長しましたが、今こそ日本と協力しながら、科学技術を通して大きく飛躍できる時代にさしかかっています。

タイは、CLMV諸国(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)の扇の要に位置する地政学的拠点であり、AEC発足を契機に、経済的、物流的、人的なハブになろうとしています。タイにおける日系企業は数千社を超え、商工会議所の会員企業だけでも1,400社を超えています。日本にとっても、アジアにとっても、持続的経済成長のためには、科学技術を通して、エネルギー問題、高齢化社会問題などの解決策を提示し、安全・安心、防災、情報社会などに貢献していくことが重要です。産総研は、その一助となる責任と能力を兼ね備えていると信じています。私もその一員として、アジアへのオープンイノベーションに微力を尽くしたいと考えています。

## 外部からのメッセージ

日本の科学技術における最大規模の研究機関である産総研には、エレクトロニクス、エネルギー、環境、ライフサイエンス、標準、地質資源などの広範囲にわたる分野において、わが国のトップランナーであるとともに、アジアにおける日系企業の支援や、爆発的成長をとげるアジアの持続的経済成長のための科学技術面からのソリューション提供を願ってやみません。また「科学技術外交」の側面からも、多岐のチャンネルを保持される産総研には期待しています。(在タイ日本大使館 一等書記官(科学技術・イノベーション担当) 恩賀 一)



日本学術振興会バンコク研究連絡センター長のタイ科学技術研究所訪問  
右端が筆者